

週刊大貫のり夫

市政ファイル No.372



日本共産党横浜市会議員大貫のり夫議会報告

発行日：2013年1月23日(水)

事務所：〒227-0061 横浜市青葉区桜台29-6

IPCC総会来年3月横浜で開催

総会の成果を横浜市の地球温暖化対策に反映させよう！

世界の科学者でつくる、国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の第38回総会が来年、3月22日～30日の日程で、横浜市のパシフィコ横浜などを会場に開催

されることになりました。日本では初めての開催となります。

総会には、約110カ国、およそ500人の科学者や政府関係者らが参加するとされています。横浜の総会では、生態系や社会経済などの分野について、温暖化の影響や対応策を話し合い、評価報告書の採択が行われます。

温暖化対策は、人類と同時にすべての地球上の生き物、その生存にかかわる問題です。

世界が注目するこの総会の成功に協力し、その成果を横浜から世界に広く発信し、同時に、横浜市の地球温暖化対策に反映させましょう。



2012年6月にジュネーブで開かれたIPCC第35回総会の様子＝RESTEC利用推進部 特任首席研究員近藤洋輝氏の報告書より引用

Twitter facebook ご覧ください

原発ゼロを明確にし、地球温暖化対策を 370万市民と協力して省エネ・太陽光発電の促進を



横浜市は2011年3月に横浜市地球温暖化対策実行計画を策定し、同年5月に温暖化対策統括本部を設置し、地球温暖化対策を進めています。

私・大貫は、2011年度決算特別委員会の温暖化対策統括本部の審議において、脱温暖化条例を制定し、市民や事業者との協働で温暖化対策を進めるべきではないかと、当局の基本方針を質しました(2012年10月3日、写真上)。

また、東日本大震災に伴う原発事故で原発ゼロを望む国民が8割以上になっており、原発ゼロの立場で地

球温暖化対策実行計画をやり抜くべきだと主張。そして、日本最大の都市として横浜市がリーディング都市として温暖化対策を積極的に進めるよう求めました。

主体性のなさが問題

温暖化対策統括本部長は、条例制定について、いま国の政策も非常に揺れ動いており、流動的な状況であるため、もう少し状況を見極めて考えていく問題だと答弁。エネルギーの問題については、学識経験者、経済界を含めいろいろな意見があるため、まだまだ議論が必要で、推移をみていく必要があると述べました。

主体性が欠けています。今、いちばん求められるのは、横浜市の温暖化対策に対する本気度を市民に示すことです。日常生活での節電も太陽光発電の設置などについても、370万市民の協力があつてこそ、成果が出ます。そのためにも市の決意を表す脱温暖化条例が必要です。

IPCCとは

気候変動に関する政府間パネル（英語：Intergovernmental Panel on Climate Change）。国連環境計画・世界気象機関により1988年に設立された政府間機関で、2007年に「ノーベル平和賞」を受賞。世界各国の研究者が、気候変動についての最新研究成果をもとに、科学的な知見を取りまとめます。報告書の内容は、各国の政策などの根拠に広く活用されます。

原発のない未来 子どもに

原発なくすまで抗議の声をあげ続けよう！

安倍政権は国民多数の「原発ゼロ」の声に逆らって原発再稼働推進を宣言し、新增設も公言しています。これは、原発直下の活断層が次々指摘されているような現実と相いれられません。危険で無責任極まる路線です。

首相官邸前と国会正門前で「原発いらない」のシュプレヒコールをあげての抗議行動が今年も続いています。

横浜市でも9回目の「No Nukes よこはまアクション」が18日夜、関内にある東京電力神奈川支店前で行われ、「原発のない未来をつくろう」の声があげられました。参加者は、リレートークで「原発の再稼働は、本当に許せない。子どもたちに



リレートークする人たち。中央でマイクを持つのがはたの氏、その右隣が古谷氏=18日、あかはた記者より写真提供

原発のない世の中を」「原子力は人間の手に負えない。原発をやめ自然エネルギーを進めよう」などなど、それぞれの言葉で訴えました。

日本共産党から、はたの君枝参院神奈川選挙区候補と党市議団から古谷靖彦市議が参加しました。



いよいよ解体工事が始まった青葉台の老舗酒屋「待弥」さん=17日撮影

やはり寂しい

青葉台の老舗「待弥」さんが廃業しました。酒屋さんです。私も自分で酒屋をやめてからは、よく赤ワインなど買っていました。40年来のお付き合いです。近くにできた量販店やコンビニと競争しても、太刀打ちができないからです。街の酒屋など個人商店がどんどんなくなってしまうのは、とても寂しいものです。

横浜市会神奈川選挙区補欠選挙

なんとしても

「もとはし 佳世」さんを市議会に

神奈川区の自民党福田進市会議員の逝去に伴う補欠選挙が、1月25日告示、2月3日投票で行われます。短期決戦です。

横浜市議会には8つの常任委員会があります。現在、日本共産党の議員は5人。「経済・港湾」「市民・文観光・消防」「水道・交通」の3つの常任委員会担当の議員がいません。そのため、関係する局の正確な情報入手が遅れることがあるなど、多くのマイナスがあります。また、議員が増えると、本会議や予算・決算特別委員会等での会派の発言時間が増えます。

神奈川区にお知り合いのある方は是非、もとはし佳世さんへの支持の声を掛けてください。議席獲得にご協力をお願いします。

もとはしさんは、これまで福祉



神奈川区市会補欠選挙立候補記者会見で、もとはし佳世（右から2人目）と私・大貫（同3人目）＝18日、市庁舎記者会見室

分野の組合で働いていました。派遣社員の経験もあり、就職難や二一トに代表される青年問題の解決にも情熱を持っています。現在40才です。

もとはしさんの勝利で勢いをつけ、夏の参院選ではたの君枝さんの議席獲得を、ぐっと引き寄せたいと思っています。



ミジンコの独り言 首都圏では、小学6年の6人に1人が中学受験するという。私学の良さも、中高一貫校のメリットもあるだろう。私学に行くには先立つものが必要で、結局持てる層だけの集団になってしまいがち。受験生には頑張ってほしいが、親もそのところをしっかり教えてほしい(M)